

令和4年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 令和5年1月31日（火） 14：30～15：50
- 2 場 所 恵庭市役所（3階 第2・3委員会室）
- 3 出席者 （市長）原田 裕、（教育長）岩渕 隆、
（教育長職務代理者）土谷 秀樹、（教育委員）尾形 直子、
（教育委員）福屋 栄人、（オブザーバー）副市長 横道 義孝
（説明員）（恵み野小学校校長）中田 和彦、
（恵み野小学校教頭）伊藤 学、（恵み野小学校教諭）村山 直規、
（恵み野小学校教諭）濱田 泰考
事務局
（総務部長） 広中 敦、（教育部長） 竹内 春実
（総務部次長）山本 顕、（教育部次長）大嶋 克幸
※教育総務課長、読書推進課長、教育支援課長、教育施設課長、
学校給食センター長、郷土資料館長 同席
- 4 傍聴者 3名
- 5 議題 議題（1）GIGAスクール構想について
（2）えにわ電子図書館について
（3）その他
- 6 議事録内容

1. 市長挨拶

日頃より皆様におかれては、子ども達の教育全般に亘り貴重な意見、ご尽力いただいていることに対して、心から感謝申し上げます。

本来であれば昨年11月の開催予定であったが、コロナの感染者が出て学級閉鎖となったことにより会議を延期していたが、コロナの感染者が減少していることもあり、本日開催する運びとなった。

委員の皆様におかれては、様々な教育を巡る問題を乗り越えて、これからの子ども達や豊かに暮らす市民に対しご尽力いただきたい。

議事のGIGAスクールでは、全ての子ども達にタブレットが行き届き、本格的に事業が行われていると伺っている。また、電子図書館は、新しい分野での教育環境であることから、委員の皆様と意見交換をしながら会議を進めていきたい。引き続き宜しくお願いしたい。

本日は恵み野小学校の校長及び教頭、教員の皆様にお越しいただき、取組の実態についてお話ししていただく。貴重なご意見として参考にさせていただきたい。

2. 教育長挨拶

皆様におかれては、日頃より市政及び教育行政にご尽力いただき感謝申し上げます。

小中学校では既に新学習指導要領を実施しているが、学校では国から示されている令和の日本型学校教育の構築を目指し、子ども達一人一人の個別最適な学びと主体的で協働的な学びがGIGAスクールを活用しながら推進していく。

本日は推進指定校で先駆けて導入した恵み野小学校から取組について説明していただく。恵み野小学校の中田校長をはじめ、教員が一丸となり子ども達の資質能力の向上のためご尽力いただいております、恵み野小学校では、昨年度文部科学省から子どもの読書活動優秀実践校として表彰されている。また、恵み野小学校のGIGAスクールの取組の中心となった一人の浜田教諭は、昨年度北海道の教育実践表彰を受賞し、今年度文部科学省から優秀教職員として表彰されている。

本日は、市長と教育委員がそれぞれの立場から意見交換を行う貴重な会議であるので、宜しくお願いしたい。

3. 議題

(1) GIGAスクール構想について

【教育委員会の取組】

●GIGAスクール構想の考え方

「児童生徒1人1台端末」と、「高速大容量の通信ネットワーク」を一体的に整備することで、資質や能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目的としている。これまでの教育実践とICTの活用を組み合わせ、学習活動の一層の充実を図り、児童生徒の力を最大限に引き出そうとするものである。オンライン学習等ICTの活用により、児童生徒の学びを保障できる環境の早期整備が求められてきている。

●①ICT環境整備

- ・タブレットパソコンを児童生徒1人1台と教職員用に合計5,919台を整備。
- ・オンライン学習に必要なWEBカメラやWi-Fiルータ等を整備。
- ・学校内で無線のインターネット通信の可能となるアクセスポイントの増設やケーブル、回線の増強、タブレットパソコンの充電保管庫を整備。
- ・児童生徒用タブレットパソコンはChromebook。教室ではノートパソコンとして使用し、反対に折り返すと持ち歩き用としてタブレットとして使用可能。
- ・充電保管庫は、タブレットパソコンを施錠して保管し、夜間帯の時間に充電も可能。

●②情報セキュリティの確保

- ・情報セキュリティ委員会を設置し、学校の情報セキュリティを確保。
- ・タブレットパソコンは短時間でログイン可能なQRコードを採用。中学校では主にアカウントの入力によるログインを選択。
- ・各学校の情報担当教職員による情報共有や校内研修の他、夏・冬休み中の情報教育に関する講座や教育情報セキュリティ委員会等を開催。

●③教職員の働き方改革

タブレットパソコンの活用により、校務の効率が図られる。

- ・授業準備にかかる時間短縮や授業の効率化
- ・ドリルやテストの自動採点

- ・アンケートの作成・集約
- ・デジタル機材の教職員間の共有
- ・WEB 会議やチャットを活用した情報共有・交流

●④端末の活用例

- ・児童生徒が体温の入力を提出する健康観察を、朝の会ホームルーム等で活用。
- ・体育実技や理科の実験で、動きを撮影しカメラ機能で確認できる。
- ・資料やアンケートの配布・回収。
- ・共有機能（Jamboard 等）を活用した協働的な学び
児童生徒の意見が一つの画面に付箋が張り付けられていることで、各自の考えや多様な意見を一度に共有できる。
- ・学習に関する YouTube 動画やインターネットを活用した情報収集
- ・デジタル教科書や電子図書館の活用
- ・コロナによる欠席者や不登校児童生徒の学習支援

●⑤市内学校の端末活用状況

- ・市内の小中学校ではタブレットパソコンはほぼ毎日使用。
- ・活用内容は多様化しており、プログラミングや思考ツールを扱う学校もある。
- ・課題として、研修時間の不足や教職員 1 人 1 台の未整備、活用方法が分からない学校も多くある。

●⑥サポート体制

- ・タブレットが故障・損傷した場合のヘルプデスクや修理保証について対応している。

【恵み野小学校の取組】

○恵み野小学校 学校長より説明

GIGA スクール構想の取組について、市内でも先駆けて導入しており、今年度については、教員が使用し様々な可能性を追求していくことを重点に実践を積み重ねてきた。4 年生以上を対象にしたタブレットを使った学習のアンケートでは、約 7 割の児童生徒は授業が分かりやすい、約 8 割の児童生徒は楽しく学べると回答しており、現状は子どもたちにいい影響を与えているように感じる。委員の皆様からの意見をいただき、精度の高い教育活動をしていきたい。

○恵み野小学校 教諭より説明

●概要

令和 4 年度からの 2 か年で子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた ICT 活用の在り方として研究に取り組んでいる。研究仮説として特に個別最適な学び、協働的な学び、「読み・書き・計算」に次ぐ基本的な素質・能力とする情報モラルの 3 点について、子ども達が充実できるよう日々先生方で話し合いながら取り組んでいる。

●今年度の取組

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、端末活用の場面や意図等を明確にした活用事例を収集。特にアプリの Classroom は、市内小中学校で標準的に使用されているもので、児童生徒がスムーズに端末を使い学習できる重要な

ものである。

②教育委員会で作成した「情報活用能力の系統表」をベースにした身につけたい情報活用能力を明らかにするための授業を実践。

③ICTを活用した働き方改革の取組として、効率化を図るべく子ども達の授業の改善・改革を行った。

●実践例

- ・小学1年生の生活では、自分の育てたアサガオを写真に収め、Jamboardのアプリへ貼り付けし、タッチペンで記入するが、タイピング能力が未熟な児童でも自分の考えを表現することができる。

- ・小学2年生の算数では、ペア・グループ交流が図られ、タブレット端末の画面が電子黒板に集約されるInterCLASSを適宜活用することで個別学習を最適化。

- ・小学4年生の算数では、Jamboard上の先生方が作成したワークシートと一緒に操作する活動により、個々の考えや気づき、知識や技能の共有する学習ができる。

- ・小学5年生の国語では、付箋機能を活用して個々の考えを整理し、グループ活動での対話を促進することで、友人がどのような考えを持っているのか、また、普段なかなか話せない児童も自分の考えを表明することができる。

- ・特別支援学級の社会では、Jamboardを検索画像貼り付けページと年表ページに分け、個の作業から協働作業が可能となった。

- ・プログラミングアプリを用いた学習では、楽しみながら慣れ親しむ活動として、バスケットやスクラッチ等のブラウザアプリを活用しており、先生方も少しずつではあるが授業で取り組んできている。

- ・学級、学年閉鎖時のリモート学習対応として、遠隔会議アプリGoogleMeetで児童の健康や困りごと等を担任が把握し、朝の会、授業、帰りの会を実施。学習端末は保護者が受取に来校してもらい対応。

- ・デジタル教科書を活用したリモート授業では、長期欠席となった児童のリモート授業参加も可能となった。

- ・タブレット端末持ち帰りによる家庭学習や個別的な宿題を高学年で試行中だが、今後全校生徒で実施するかは検討中。

●成果と課題

- ・先ほどの校長が話したアンケートのとおり、好意的な意見が多々見られた。

- ・国語科の協働学習において同じ文書を画面上で共有しながら児童が同時に編集できる機能を活用して資料を作成することや、作成物にコメントをする機能を活用して文章の添削を行えるのに効果的であった。

- ・タブレットと電子黒板を併用した授業は、分かりやすいと評判だったことから今後も続けていきたい。

- ・文字入力が難しいとのアンケートから、タッチペンの購入や手入力の機能を用いるなど、児童がスムーズに端末を使用できるよう工夫が必要。

- ・授業での情報活用能力における「育てたい力」を一層明確にし、指導と評価を一体化させた実践を積み重ねていくことが必要。

- ・学校の通信速度や家庭における通信環境の確保、充電器やタッチペン、端末持ち帰り用の専用バッグ等を準備する等、環境や条件の整備が必要。
- ・児童が端末を効果的に使っていくために、タイピングスキルと低学年の児童が文字入力でつまづかないような代替手段の準備が必要。
- ・「善き社会の担い手」を目指す社会参加デジタルシティズンシップ教育の具現化。
- ・ICT を活用した働き方改革をより進めていくために、教職員研修の充実や他校との情報交換等、幅広い情報収集を常日頃から行うことが必要。

【質疑・意見】

(市長)

リモート学習の様子について、子ども達は1日中リモートで同じ画面を見ているのか。

(恵み野小学校)

写真は2年生の様子で、リモートでの授業を1日中することは難しいため、担任が保護者と連絡を取り合い、午前2時間、午後1時間程度実施しており、同じ画面を共有している。

(市長)

長期欠席となった児童のリモート授業の対応は個々で時間外に行うのか。

(恵み野小学校)

対象を、濃厚接触者等本人は元気であるが学校に登校出来ない子としており、日中の授業で行っている。また不登校の子どもは入らない。

(教育長)

1日3時間程度の授業は、子どもたちの集中力が続かないこともあり、そもそもリモート授業は授業時数として認められていない事情もある。また、高校ではリモート授業が通信教育として授業時数を認められているところもある。

(A委員)

東京へ視察に行ってICT化を見たが、恵み野小学校と遜色なく、授業の使用方法是素晴らしいかと思う。渋谷区では各児童の勉強や生活態度、健康面、先生の指導力等のデータが一元化され、全教員が共有できるようシステム化されており、進んでいると感じた。授業のアプリとしての使い方だけでなく、これらのシステムを組むことで子どもの変化がグラフ化され、有効に使っている印象であった。アンケートでは、タブレットの接続がよく切れるとあったが、どのくらいの頻度か。

(恵み野小学校)

現在はあまり発生していないが、導入当初は一斉に児童が使用すると頻繁に接続が

切れることがあり、通信速度下がることもあった。また、学級閉鎖が数クラスあった場合、同時に授業を行うためオンラインが切れることもあった。

(市長)

容量が足りないのか。

(教育総務課長)

サーバーの増強はしたが、特に大規模校で同時に使用となるとどうしても速度が遅くなってしまうことがある。今後改修は必要になるかもしれないが、可能な限り使用を分散してもらっている。

(A委員)

渋谷区ではLTEの規格で外でもどこでも繋がり、家と学校でタブレットが1台ずつある。

(市長)

通常の授業とタブレットを使った授業では、どちらが子どもの習熟度を把握するのに有効なのか。

(恵み野小学校)

本校ではタブレットの授業をメインとしていたが、今後は児童の習熟度が分かるよう学習アプリで自分にあった勉強方法を進めたり、教員からの宿題を試したり、共通の問題を共有するのはもちろんのこと、児童にあった学習レベルで問題を変えていくものを来月から試行していく予定である。

(B委員)

このシステムを使うことで、習熟度の早期発見やアンケートの活用によりいじめを早期に見つけ、事前に対策できる点が有効であると感じた。また、タブレットの活用により先生方の時間外勤務も短縮されているのではないかと。

(恵み野小学校)

GIGAスクール構想として新しく入ってきたものに対応している点は、現状は大変ではあるが今後業務が効率化していけば、本校が大切にしている子ども達と対話する時間が増えていくと思う。

(市長)

デジタル教科書にある参考資料や過去のテストをすぐ引き出せるよう運用していけば、先生方の問題作成や印刷等にかかっていた時間が短縮されていくのではないかと。また、個々の子ども達の進捗や不得意なデータを個々に作成することも出来るのか。

(恵み野小学校)

子どもの達成度が把握できる体制づくりを行っていくが、どのようなシステムでデータ化するかは学校だけでは難しいので、他校や教育委員会と情報交換しながら構築していきたい。

(B 委員)

システムを作っていくためには、民間業者に頼っていかざるを得ないかと思う。このシステムをより良くするには、タブレットを与えるだけではなく、その後の利用方法等、市全体でバックアップしてほしい。

(市長)

現場で使い勝手の良いシステムにしていくことが必要であると思われる。先生方の考え方やシステムを作る側も理解していきながら、研究会等でシステムを構築していくことが出来るとより良いかと思う。

(教育長)

恵庭市で令和元年度に導入した電子黒板は他市からも評判がよく、他市では既に黒板の半分がプロジェクター型の電子黒板を導入していたが、恵庭市が導入した電子黒板の板書と比べ半分程度になることから、恵庭市と同様の電子黒板に入れ替えたこともあり、慎重に必要なものを精査している。

(恵み野小学校)

保護者のアンケートで、お便りや宿題をペーパーレス化することについて半分程度は今まで通り紙面を希望していたことから、保護者の方の理解を進めながら慎重に調整していきたい。

(2) えにわ電子図書館について

●概要

- ・令和3年4月1日 小中学校に向けて『えにわ電子図書館』を開設。
- ・令和4年3月6日 『えにわ電子図書館』を一般の方も対象に加え利用を拡大。

●特徴

- ・インターネット環境があればパソコンやタブレット、スマートフォンで閲覧可能。
- ・文字の拡大や色反転、自動ページ送り機能、読み上げ速度の変更が可能。
- ・音声や動画コンテンツの再生可能となり、視覚障がい者も読書できる。
- ・本の延滞や紛失、摩耗がない。
- ・郷土資料等の独自資料も公開。
- ・紙媒体の図書とは異なり、場所を取らない。

●利用方法

- ・ ホームページ上にある利用者 ID とパスワードを入力しログインする。
- ・ 1 人 1 冊まで 1 4 日間貸出可能。
- ・ 試し読みもでき、借りたい場合は借りるボタンを押下
- ・ 読み終わったら返却となるが、読み切れない場合は 1 回まで延長可能。

～スクリーンにて画面操作により利用方法を説明～

【質疑・意見】

(市長)

図書館にある全ての書籍を電子化しているのか。また、著作権は問題ないのか。

⇒電子図書館用の電子書籍を市で購入し、現在 1, 5 3 1 冊を登録している。まだ購入できる書籍もあるが、一度購入した書籍が 2 年間で貸出回数 5 2 回を超えると電子書籍から無くなる契約のため、計画的に購入している。また、著作権は販売されているものを購入しており、問題ない。

(市長)

恵庭市民に関係なく借りることが出来るのか。

⇒恵庭市の図書館利用者カードがあれば借りることができる。

(A 委員)

電子図書館はどのくらいの頻度で使われているのか、また、閲覧している年齢層は分かるか。

⇒使用頻度は 4 月～ 1 2 月までのログイン回数は 1, 7 0 2 名の内、小中学生が 6 5 1 回、貸出件数は 5 6 3 冊の内、小中学生が 1 9 9 冊である。

(市長)

1 人が書籍を借りたら他の人は借りられないのか。

⇒貸出中の表示となり、借りることができない。また、青少年文化振興基金を使って小中学生向けに授業などで使えるよう同時に 3 0 名～ 4 0 名程度貸出できるものもあるが、紙媒体の本と比べ約 3 ～ 7 倍の価格帯である。

(C 委員)

ブラウザ上で閲覧するのか。

⇒ブラウザ上での閲覧となり、ネット環境があれば、どこでも閲覧できる。

(教育長)

例えば道立図書館では電子書籍 3, 0 0 0 冊を登録しており、紀伊国屋書店が行っているサービスを導入している。様々な会社がある中で、恵庭市が今回電子書籍の購入

先として選んだ理由はあるか。

⇒恵庭市で購入している書籍は、多くの子ども達が同時に閲覧できる本を買うことと安価で販売していることを満たす業者としている。

(市長)

書籍を返却する場合はどうすれば良いか。

⇒返却ボタンを押下。

(恵み野小学校)

電子図書館を既に利用しているが、新恵庭市史やカリンバの本など教材研究できそうな書籍が電子化されれば、教材として使用していきたい。

⇒新恵庭市史は販売中のため、電子書籍化としては現状行われていない。昔の恵庭市史やカリンバの本は恵庭図書館で閲覧でき、昔の恵庭市史は少しずつではあるが手入力し電子化している。

(A 委員)

ページ数が多い電子書籍はスムーズに閲覧できるか。

⇒特に問題ないと思う。

～スクリーンにて声の出る本（A I）を実演～

(恵み野小学校)

子ども達は電子図書館のログインをするのが煩わしい、人気のある本が貸出されてしまい読める本が少ないとの意見もあり、電子図書館にあまり魅力を感じていない印象を受けるため、コンテンツの充実や1人1台端末から自宅で読書ができるなど活用できれば幅は広がるのではないかと。

以上